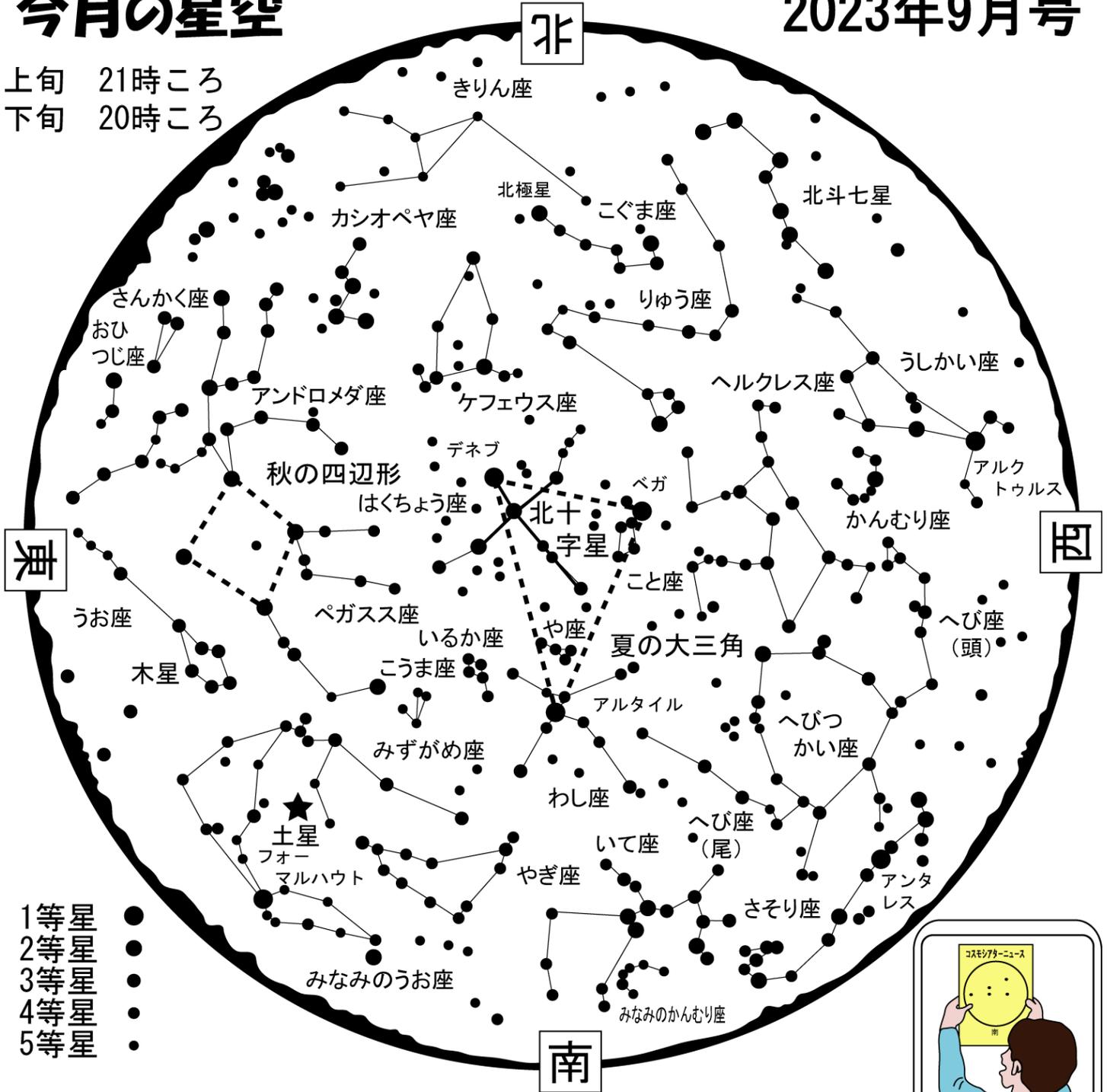


# コスモシアターニュース

## 今月の星空

## 2023年9月号

上旬 21時ころ  
下旬 20時ころ



### 惑星の動き

- 水星：中旬以降の明け方、東の低い空に見えます。明るさは1〜1等星です。
- 金星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは-4.5等星です。
- 火星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
- 木星：夜遅く、東の空に見えます。明るさは-2.5等星です。
- 土星：夜のはじめころ、東から南東の空に見えます。明るさは1等星です。

### 今月の月の満ち欠け

下弦：7日(木) 新月：15日(金) 上弦：23日(土) 満月：29日(金)



## 4日(月)、深夜の東の空で、月と木星が並んで輝く

4日(月)の21時30分ころ、東の空に明るい月が昇ってきます。そして、この月の下を見ると、明るい星が輝いているのが分かるでしょう。この星が木星です。木星は-2.5等星で、普通の1等星の10倍以上明るいので、大変目につくでしょう。なお、時間がたつと空高くなってきます。見ごろは、22時以降の深夜になります。

## 12日(火)、明け方東の空で、月と金星が並んで輝く

明け方の午前5時ころ、東の空を見ると、大変明るい星が見えます。この星が金星です。金星は、これか、年末にかけて明け方に見えます。そして、明け方に見える金星を、明けの明星(あけのみょうじょう)と呼びます。

この金星に、12日(火)の明け方、細い月が並んで、大変美しい眺めとなるでしょう。ただ、高さが低いので、東方向に障害物がない、見晴らしのいいところをご覧ください。

ところで、11日(月)は、月が金星の左上に輝き、多少離れて見えます。そして、12日は、月が金星の左側に移動し、最も近づいて見えます。その後、13日(水)は、月が金星の左下へ移動し、この接近は終了となります。

天気が良ければ、連続してご覧いただくと、月の位置や欠け具合の変化を見ることができます。ぜひ早起きをしてご覧ください。

## 21日(木)、月がさそり座のアンタレスを隠す

夕方南の空に、さそり座のアンタレスが輝いています。アンタレスは、1等星ですので肉眼でも簡単に見える星です。このアンタレスが、21日(木)に月と重なって見えなくなります。月がアンタレスに重なるのは、夕方の空が明るいところで、肉眼では見えません。この後、月が少しずつ移動し、アンタレスが月から離れ見えるようになります。アンタレスが見えてくるのは、18時40分ころです。このころは、まだ夕焼けが残り、双眼鏡がないとアンタレスは見えないでしょう。その後、19時ころには、夕暮れがおさまり、月がアンタレスから離れるので、肉眼でも見えてくるでしょう。今回は、肉眼で分かりにくいので、小型の双眼鏡などを使って観察してみてください。

## 27日(水)、東の空で、月と土星が並んで輝く

27日(水)の20時ころ、ぼぼまん丸の明るい月が南東の空に輝いています。そして、月のすぐ右上に、明るめの星も並んで昇ってきます。この星が土星です。普通の1等星ですので、月が明るくあまり目立たないかもしれません。注意深く探してください。

## 29日(金)、中秋の名月

中秋の名月は、旧暦の8月15日で、いつもほとんど真ん丸の姿となります。今年の中秋の名月は、9月29日の金曜日となります。

この日の月は、18時ころに東の空から昇ります。このころは、まだ高度が低いので、もう少し後の19時~20時ころが見やすくなるでしょう。なお、今年の中秋の名月は、本当の満月です。このため、肉眼では、まん丸の月に見えるでしょう。

ところで、月を詳しく見ると、白い所と黒っぽい所があります。この違いを見て、昔の人は月にさまざま姿を想像しました。

図は、さまざまな国で見られた月の姿です。日本で一般的に有名なのが、もちをつかうさぎでしょう。しかし、国が変わればほかの姿もいろいろ考えられました。皆さんも、月にどんなものが見えるか、実際の空をご覧ください。

